

【イベントレポート】「関西教育 ICT 展」に本校生徒が登壇！他校との交流で得た刺激と未来への手応え

7月30日(水)、インテックス大阪にて開催された西日本最大級の教育展示会「関西教育 ICT 展」の特設ブースに、本校の生徒1名が兵庫県代表として登壇しました！

今回のステージは、全国約20か所で展開されている「高校生 ICT カンファレンス」の特別セッション。「高校生が考える、賢いネット・AI・SNSの活用方法」をテーマに、関西の高校生たちが集まり、自校の取り組みや社会への提言を発表しました。

本校の取り組みと「賢い AI 活用」の提言を発表

ステージには、本校のほか、帝塚山高等学校・早稲田大阪高等学校の生徒のみなさんが登壇。

本校の代表生徒は、大勢の教育関係者や企業の方々が見守る中、福崎高校が推し進める「デジタルを絆と探究の手段にする学び」について堂々と発表を行いました。

特に、単に AI から答えをもらうのではなく、「AI を壁打ち相手(パートナー)として一緒に考えを創り出す」という本校独自の活用法や、自律的な情報モラルの取り組みには、会場の多くの方が深く頷かれていました。

さらに後半のセッションでは、これからの時代に求められる賢いネット・AI・SNS との付き合い方を高校生自身の視点から提言しました。

参加した生徒のリアルな声(生徒感想)

大舞台での発表を終えた生徒のリアルな感想をご紹介します。

「今回、関西教育 ICT 展に参加させていただき、とても貴重な経験をすることができました。参加して一番印象的だったのは、他校(早稲田大阪高校)の生徒さんの発表です。台本なしのアドリブでも、堂々と伝えるべきポイントを的確に話していて本当にすごかったです。自分自身、このような大きな場で話したり発表したりするのは初めてでとても緊張しましたが、見に来てくれた親からも『よく話せていたよ』と言ってもらえてすごく嬉しかったです。他校の発表を聞いて、福崎高校よりも確実に ICT 教育が進んでいると感じ、私立と公立の差を実感する機会にもなりました。またこのような成長できる機会があれば、ぜひ進んで参加したいです！」

挑戦から始まる、新しい福崎高校の学び

初めての外部大舞台に緊張しながらも、一歩を踏み出した生徒。他校の洗練されたプレゼンテーションに刺激を受け、「もっと成長したい」「公立高校としてさらに ICT 活用を進めたい」という悔しさと意欲が混ざり合った本音は、何よりも代えがたい大きな財産です。

福崎高校では、来年度開設予定の「デジタルファブリケーション(3D プリンターやレーザーカッター等を活用したモノづくり授業)」をはじめ、ICT・AI を活用した探究的な学びをさらに加速させていきます。他校の素晴らしい取り組みに学びながら、これからも生徒一人ひとりが「自ら考え、創り出し、社会へ発信する力」を育ててまいります。

応援してくださった皆さま、関係者の皆さま、本当にありがとうございました！

